

～～第8845回～～

稲荷山（京都）

～R2. 2. 8～

全国に約3万社あるといわれる稲荷神社の総本宮・伏見稲荷大社に詣でる。新名神から見える鈴鹿山脈は、今朝の冷え込みで薄ら雪化粧している。大社バス乗降場から狭く混雑する道を表参道へ向かって歩く。一番鳥居を潜ると大きな楼門があり、精悍な顔付きの狛狐が出迎えてくれる。稲荷神は五穀豊穰や商売繁盛等のご利益がある。拝殿にはお供物(酒や果物・野菜等)が山のように積まれている。寒さ厳しいこの時期、新型コロナウイルスの影響も加わって人出は少ないはずだが、参詣者は引きも切らない。しかも、ほとんどが外国人だ。まずは千本鳥居を抜け奥社奉拝所へ。願い事を念じて丸石を持ち上げ、軽ければ願いが叶い、重ければ叶わないといわれる「おもかる石」を試す。通常ならば行列のはずが、誰も並んでいない。しめたとばかりにワングルで独占する。奥社を後に、熊鷹社のある新池から三つ辻、四つ辻へ進む。有名な千本鳥居はほんの序の口。その後も鳥居は延々と続き、果てるともしれない。三ノ峰、二ノ峰、一ノ峰と神の住まう稲荷山の階段を上る。一ノ峰が上社神蹟で稲荷山(233m)の山頂だ。沢山の鳥居とお社に囲まれているが展望はない。この先は下りになる。北側のため日陰で薄暗く肌寒い。鬱蒼とした雰囲気の中、さらに鳥居は続く。お社も次から次へと現れ、幾つあるか分からない。トイレのある御前谷奉拝所で一息。付近には昼食をとれるような場所がなく、一周して四つ辻で昼食にする。岩の上にベンチがあり、第二京阪道や京都市内が眺望できる。三つ辻へ下り、来た道を左手に裏参道を直進する。ここには四角い「おもかる石」がある。数多のお社と民家が混在する一隅に豊川大神のお社があり、狛狐と狛犬が並ぶ。微笑ましい狛犬を是非ご覧あれ、後ろから。さらに下り、八嶋ヶ池の脇を回り再び本殿へ戻ってくる。北参道沿いには土産物屋や露店が並び、美味しそうな匂いが漂う。お土産を探しながら乗降場へ。バスを呼んで月桂冠大倉記念館に向かう。伏見の地名は神の山から流れる出る神聖な地下水、伏水(ふしみ)が由来とのこと。坂本龍馬が襲撃された寺田屋をのぞいたりしながら古い酒蔵街を散策する。

参加者：17名（静岡東2、藤枝15）

天気：晴れのち曇り

地図：京都東南部

コースタイム：藤枝 530＝名神京都東 IC930＝伏見稲荷大社 P1000…四つ辻 1100…伏見山 1125…四つ辻 1200-1230…大社 P1350＝月桂冠大倉記念館見学・散策 1420-1550＝京都南 IC1620＝藤枝 2040

記録：藤枝支部 ゆ記



約1万基あるといわれる鳥居